

表紙のことは



息子は5歳8カ月のときに脳動静脈奇形により脳出血を起こしました。突然のことで現実を受け入れることが難しい中でしたが、入院中は優しい先生方に囲まれて、毎日楽しくリハを進めていました。特に作業療法は大好きな創作活動が中心で、明日は何をするのか、前日からわくわくするほどでした。作品の水彩画は、茶色の絵の具を見た途端に思いついたようで、黙々と自分のイメージを形にしていきました。発症前の記憶、大好きだった化石への思いが残っていたこと、夢中に取り組む姿は入院生活を共にする私には希望に映りました。さまざまな経験をさせてくださったリハの先生方には心より感謝しています。生活の中で苦しい思いをすることはありますが、これからも一ひとつと自信を積み重ね、小さくても一歩ずつ前に進めるよう、一緒に歩んでいきたいです。(母)

前端 晴太「恐竜の化石掘りたいね！」



今月の作品

本コーナーでは、表紙にご応募いただいた作品の中から毎月1点をご紹介します。



高田 アイ子「梅に鶯」

作品づくりは、いつも心配してくれる友人に感謝の気持ちを伝えるために始めました。

本作は3作目になります。ご自分からお話しされることが少ない方なのですが、このときは「この部屋に作品を飾ったら、みんなが喜ぶんじゃないか？」と自ら提案してくださいました。梅を目立たせるような工夫を考え、額縁には明るいピンク色を選びました。完成したときは、「いいのができたと感じて楽しかった」と納得のいく出来栄となりました。

リハビリ室に飾ると、「いいね!!」、「素敵!」とたくさんの人が褒めてくれました。

(担当 OT：大谷さやか)